

見られ、中学生らしい造形力の育ちを感じることができた。第2学年の美術科の学習では「社会と美術」というテーマを設けている。これは、①身近な生活や社会の中に活かされている美術の力、その豊かさに気づき、表現を通して理解を深めて欲しい。②中堅学年という学校生活が充実する時期に、「学校の外的世界（社会）にも興味を持ち知的好奇心を広げて欲しい」という思いから設定している。本題材はこのテーマに向け設定するものである。

### 3. 指導目標

学習指導要領の学年目標を参考に題材の内容に合うように記述する。

#### (1) 知識及び技能

共通事項の習得に関わる目標と、技能の習得に関わる目標とを書く。

#### (2) 思考力・判断力・表現力等

発想や構想の能力に関する目標と、鑑賞の能力に関わる目標とを書く。

#### (3) 学びに向かう力・人間性等

学年目標の(3)を参考に、表現及び鑑賞に取り組む姿勢を書く。

目標の語尾は「～する。」のように表記する。本書に掲載した指導案では、目標を各能力ごとに分けて示しているが、観点ごとに一文にまとめて示してもよい。

### 3. 題材の目標

#### (1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。([共通事項])
- ・絵具の表現方法の特性から制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ってピクトグラムに表す。([A表現](2))

#### (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・伝える目的や条件などを基に、自分にとって身近な環境を見つめ直すことなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、ピクトグラムの表現の構想を練る。([A表現](1))
- ・作品の調和のとれた洗練された美しさや、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見え方の美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める。([B鑑賞](1))

#### (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、見えやすさや分かりやすさなどを大切に美しく表現したり、鑑賞したりする学習活動に主体的に取り組もうとする。

#### 4. 評価規準

上記(3)の指導目標に照らし合わせて、評価の妥当性を判断できる学習者の姿を書く。

語尾は「～(して)いる。」のように表記する。

#### 4. 題材の評価規準

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
<b>【知】</b> 形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。	<b>【発】</b> 伝える目的や条件などを基に、自分にとって身近な環境を見つめ直すことなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、ピクトグラムの表現の構想を練っている。	<b>【態表】</b> 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し、見えやすさや分かりやすさなどを大切に構想を練り、絵具の特性から制作の順序などを総合的に考え、見通しを持って表す表現の学習活動に取り組もうとしている。
<b>【技】</b> 絵具の表現方法の特性から制作の順序などを総合的に考え、見通しを持ってピクトグラムに表している。	<b>【鑑】</b> 作品の調和のとれた洗練された美しさや、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見え方の美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めている。	<b>【態鑑】</b> 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品の調和のとれた洗練された美しさや、表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見え方の美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

#### 5. 指導と評価の全体計画

全体計画は題材の始めから終わりまでの計画を書く。同質の活動ごとにまとめて「○次」とし、そこにかかる時間を「時間」で示す。研究授業の該当箇所には「本時」と入れる。

内容は「学習のねらい・学習活動」「評価の視点」「評価方法・指導の留意点」などについて書く。

#### 6. 用具

題材を通し使用する用具や材料について、教師が準備するもの、生徒が用意するものと分けて記す。

#### 7. 教室配置

指導場面に応じた教室のレイアウトなどを描く。

## 5. 指導と評価の計画 (5時間)

学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・指導の留意点等
<p>1. 発想や構想 (2時間)</p> <p>●身の回りにあるピクトグラムを用いて比較鑑賞を行うことで、学習に対する生徒の興味関心を高め、実感的にピクトグラムの定義を理解するとともに、次時(発想・構想)のポイントにもなる形や色彩が見る人に与える効果や、見えやすさという考え方について理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較鑑賞をする</li> <li>・ピクトグラムの定義を知る</li> <li>・ユニバーサルデザインとしての理解</li> <li>・伝達したい内容に適した色彩や形があることを知る</li> <li>・見えやすさ(視認性)について知る</li> </ul> <p>●「学校の問題点をピクトグラムで解決しよう」という呼びかけに対し、個人→グループでの話し合いを通して主題を見つけしていく。見る人によりよく伝えるための「形の工夫」として、形の単純化や強調の効果を理解し取り入れながらアイデアスケッチを行い、中間鑑賞で修正を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活の中から主題を考える</li> <li>・伝達したい内容に適した形を探す</li> <li>・形の単純化や強調の効果を知り構成する</li> <li>・中間鑑賞後にアイデアを修正する</li> </ul>	<p>知 ↓</p>	<p>発 ↓</p>	<p>態鑑 ↓</p> <p>態表 ↓</p>	<p>知 身の回りにあるピクトグラムを造形的な視点から鑑賞し、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取る。 【観察、振り返りカード】 形と色彩の効果による形の見えやすさの違いについて確認するような指導を行う。</p> <p>態鑑 身の回りにあるピクトグラムを造形的な視点から鑑賞し、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとする意欲や態度を見取る。 【観察、振り返りカード】 ピクトグラムの特徴がつかみやすい参考例を用いて比較し説明する。</p> <p>発 校内の環境を見つめ直し、目的や条件を基に主題を生み出しているかを見取る。 【観察、アイデアスケッチ】 校内の写真から、校内の危険箇所について話し合わせるなどして主題を見つけさせる。</p> <p>態表 主題を生み出そうする態度を見取る。 【観察、アイデアスケッチ】 1日の学校生活を振り返らせ、どんな場所を利用しているか、不便さを感じる場所はないかなどを問いかける。</p> <p>発 主題を基に、形の単純化や強調を効果的に行い、画面構成を工夫し、より伝わるような美しい形のピクトグラムの構想を練っているかを見取る。 【観察、ワークシート】 自分のアイデアを遠くから鑑賞させ、視認性と形の単純化や強調、画面構成の工夫を確認させる。</p> <p>態表 主題を基に、形の強調や省略を効果的に行い、画面構成を工夫しピクトグラムの構想を練ろうとする態度を見取る。</p>

				<p>【観察、ワークシート】          枠の中での適切な大きさや地と図のバランス、伝わりやすさや、見た目の美しさに着目させる。</p> <p>【発】生徒が、校内の環境を見つめ直し、目的や条件を基に主題を生み出し、形の単純化や強調、画面構成を工夫し、より伝わるような美しい形のピクトグラムの構想を練っているかどうかを暫定的に評価する。作品完成後にアイデアスケッチ、ワークシート、完成作品などを再度見取り、必要に応じて評価を修正する。          【ワークシート】</p> <p>【態表】生徒が知識を活用し、主体的に発想や構想の学習活動に取り組もうとする態度を評価する。          【観察、アイデアスケッチ、ワークシート】</p>
<p>2. 制作（2時間）</p> <p>●ポスターカラーの水分量の調整と塗り方の基本、形をはっきりと見せるための分離の効果について学ぶ。生徒が自分の下絵に最も合った塗り方を総合的に考えて制作できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水分量の適量を知る</li> <li>・美しく仕上げるのに適した塗りの手順を知る</li> <li>・分離の効果について知る</li> <li>・下絵を描く</li> <li>・自分の塗り方を総合的に考え塗る</li> </ul>	<p>【技】          ↓</p>		<p>【態表】          ↓</p>	<p>【技】主題に合った外枠の形や色彩を選び、絵具の性質や制作の順序などを総合的に考え、美しく仕上げるための見通しを持って表しているかどうかを見取る。【制作途中の作品】          図と地の区別を明確にさせ、配色による分離の効果を口頭で確認させる。</p> <p>【態表】絵具の特性から制作の順序などを総合的に考え、美しく仕上げるための見通しを持って表そうとしている態度を見取る。          【制作途中の作品】          美しく仕上げる水分量の適量や安定した筆の動かし方などを再確認させる。</p> <p>【知・技】完成作品から、形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解していることと、絵具の特性から創作の順序などを総合的に考え、美しく仕上げるための見通しを持って表しているかをあわせて見取り、【知】と【技】を【知・技】として一体的に評価する。          【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】</p>



発

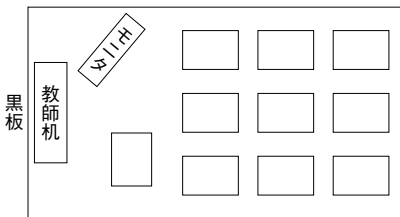
発 発想や構想について、主題のアイデアスケッチや構想を記したワークシート等を完成作品とあわせて見取り、最終的な評価を確定する。【アイデアスケッチ、ワークシート、完成作品】

## 6. 用具（準備）

教師：画用紙（八つ切り）、振り返りカード、ワークシート4種（ピクトグラムの学習用、アイデアスケッチ用、オリンピックピクトグラム紹介用、鑑賞活動用など）、パソコン、パワーポイント、テレビモニタ、画像データ・掲示物等（街中や学校内にあるピクトグラムの掲示物）、参考作品

生徒：鉛筆、ポスターカラー、筆洗、筆記用具

## 7. 教室配置



- ・4人が向かい合って1台のテーブルにつく
- ・モニタの見えづらい席がないか注意する
- ・必要なプリントは前の教師机にセットしすぐ使えるようにする

## 8. 本時の指導

### (1) 本時の指導目標

題材の「3. 指導目標」と対応し、その時間の学習内容に応じて必要なものを設定する。例えば、鑑賞の能力に関係しない授業ならば鑑賞に関する目標は書かなくてもよい。1時間の授業では確実な学力の定着を図るため、本時の指導目標を絞り込む必要がある。活動内容に応じた1つの目標と、その目標に向かう「主体的に学びに向かう姿勢」で十分であろう。複数入れ込むと散漫になることがあり、結果としてどの目標も中途半端になることがあるので注意したい。ただし、同時に関連して身に付く目標であるならば複数書く。

### (2) 本時の評価規準

本時の指導目標について「4. 評価規準」と照らし合わせ設定する。